

## 有限会上内板金工業

### 今井 雄貴さん

Imai Yuki

#### Profile

小松市生まれ。小松北高等学校（定時制）出身。2018（平成30）年、在学中から上内板金工業に勤務。「職人と聞くと、頑固そうなイメージがありましたが、上内板金工業はそんなことはありません。一から丁寧に教えてもらっています」と今井さん。建築板金職人として着実に成長中です。



#### 有限会上内板金工業（小松市）

1989（平成元）年設立。小松市を中心に南加賀エリアで住宅リフォームを中心に幅広い建築板金を手がける。一般の方との仕事も多く、確かな技術力と対応力を武器に、予算やデザインなど幅広いニーズに応えている。【所在地】小松市大領町そ 82 【資本金】300 万円 【代表】上内和法



### 仕事の夢♡

## まずは一人前に!!

まずは現場での経験を重ね、一人前の建築板金職人になることが目標です。1級建築板金技能士の資格取得も目指しています。



#### 建築板金職人までの道のり

◎手先が器用で、ものづくりにも興味



◎知人の紹介を受け、(有)上内板金工業に就職

「ゼロからのスタートでしたが、社長にマンツーマンで教えていただいています」（今井さん）

#### 職人の こだわり

現場での仕事道具ですが、これはまだ一部。工事内容に応じて使い分けています



最初は緊張した屋根の作業も今は慣れたもの。上内社長の指示を受けながら、いろいろな経験を重ねています



### 社長とともに忙しく現場へ 一歩ずつステップアップを

#### 細部にまで気を配り、 きれいな仕上げを徹底

入社5年目、今井雄貴さんは上内板金工業（小松市）に勤める若き建築板金職人です。南加賀エリアの住宅を中心に、屋根や外壁、雨どいなどの施工を担っています。そんな今井さんに、建築板金のいろはを教えてくれたのが、同社社長の上内和法さんです。常に2人1組で現場に向かい、実践の中で指導を受けながら技術を磨いています。

「建築板金の仕事は奥が深い。今は、もっともっと仕事ができるようになることが第一で、学ぶことがまだまだたくさんあります」と話す今井さん。とりわけ、上内社長の目が厳しく光るのが、細部の仕上げです。屋根や外壁にわずかでもミスがあれば、雨漏りなどのトラブルの原因になってしまいます。

屋根の上での作業など、危険を伴う場面も少なくなく、安全

面への配慮も欠かせません。「社長に何度も指摘される中で、きれいな仕上げと安全への意識は高まっています」（今井さん）。日々の仕事を通して、建築板金職人としての技と心が、次の世代へと受け継がれています。

#### 子どもの時の趣味は切り絵。 手先の器用さを生かしたい

今井さんが上内板金工業で働くようになったきっかけは、お世話になっている方からの紹介でした。前々から「将来は外で体を動かして働く建築業に就きたい」と考えていたそうで、建築板金について話を聞く中で仕事への興味はどんどん高まっていきました。

加えて、職人仕事ならば手先の器用さも生かせると思いました。「プラモデルを作るのが好きでしたし、小学校の時から趣味で切り絵もしていたんです」と今井さん。自身の得意分野を

発揮しながらものづくりに携わりたいと考え、建築板金の道に踏み出しました。

#### 初現場は高さ12メートル 高所作業に冷や汗

こうして建築板金職人として歩み始めた今井さんですが、その第一歩は苦い体験とセットになって思い出されます。初めての現場はヘリコプターの格納庫。仕事をするためには、高さ12メートル以上の屋根に上る必要があります。「安全帯を着けてはいますが、正直、怖かったですね」と、冷や汗をかいた初仕事を振り返ります。

その後、住宅や店舗など数々の現場を経験する中で、暮らす家族や利用する人たちの笑顔につながるものづくりにどんどん魅了されていったとのこと。「上内板金工業はとても居心地がいいですし、今は仕事がとても楽しい。毎日が充実しています」

と、今井さんは笑顔で教えてくれました。

そんな若き職人の成長を近くで見守ってきたのが上内社長です。「業界はもちろん、住宅に関する意識や感覚も、これからどんどん変わっていきます。建築板金のスキルを核としながらも業種の垣根にしばられることなく、広い視野で成長してほしいと思います」。上内社長は、前例にとらわれず、新しい時代の職人像を築いていくことに期待を寄せています。

